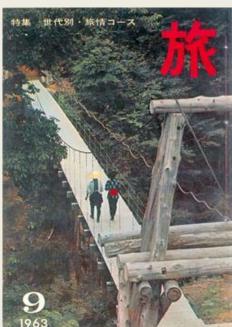
Time slip 五十年前の産地とエスたち

平成29年11月26日東京こけし友の会例会

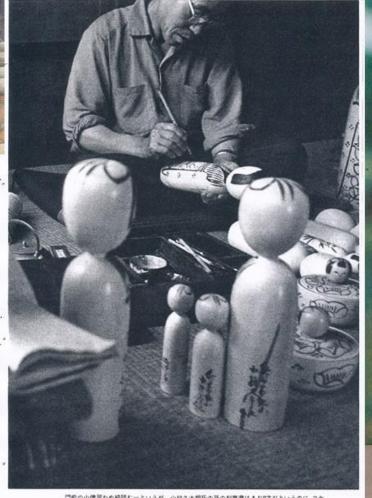
橋本正明





こけしの木地山からランプの泥湯へ

雜誌〈旅〉 昭和38年 (1963) 9月号 日本交通公社



門前の小僧習わぬ経数も一というが、小椋久太郎氏の孫の科苑君はまだ9才だというのに、コケン作りがとてもうまい。12Kmの山路を小学校へ通い、帰るとコケシの中に埋れて勉強している



本地国コケンと言えば、東年の数チャーは しのなかでも、独特だ。数田県南東陽の山中 はひそむたった二軒だけの都落。本地山を広 ずねるコースは、その近く小安(おやす) 泉という旅情ある宿泊地があり、その異にも 定満(どろゆ)という、いかにも変化山中ら しい湯が場かあって、コケシファンならずと も魅力を感じるにちがいない。 これは、薬化物性の放情の琴線に触れるこ との出来をコースである。(本文10ページ参照)



昭和39年(1964年)8月 木地山 小椋久太郎と桁倉沼



昭和39年(1964年)夏 木地山 小椋久四郎未亡人キク





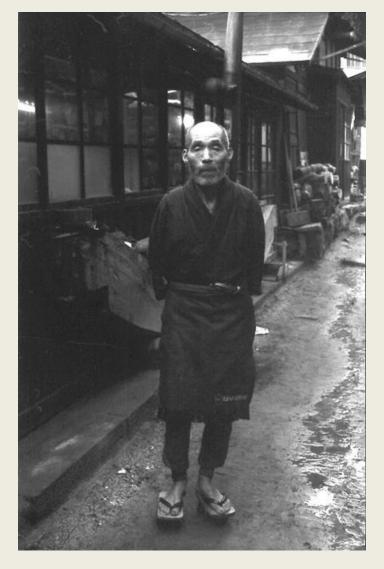
昭和39年(1964年8月) 木地山 小椋久太郎一家



はじめて買ったこけし



昭和39年 (1964年) 12月 鳴子



高橋武蔵



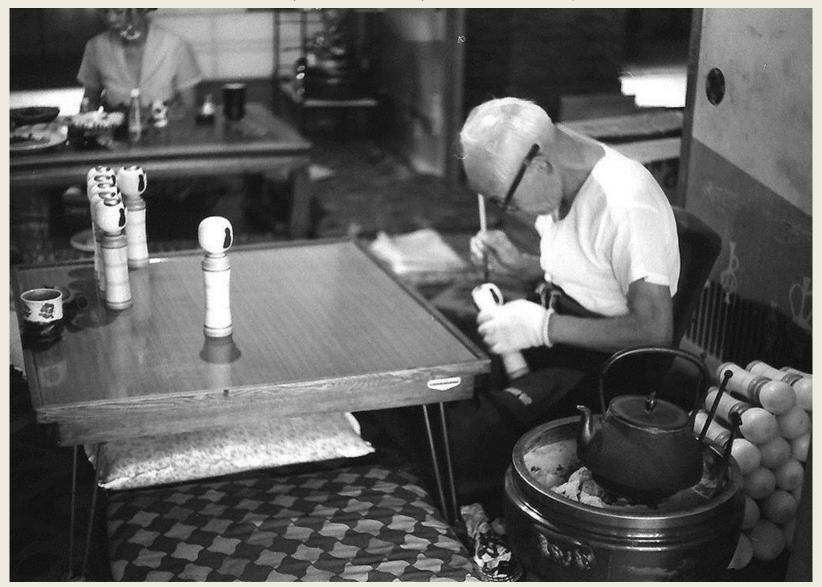
高橋盛

昭和40年 (1965年) 9月 鳴子



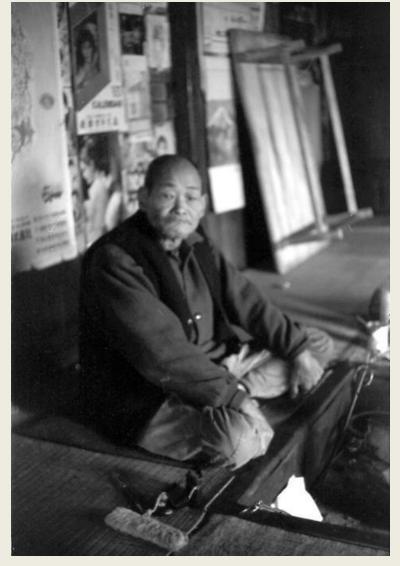
木取りをする高橋武蔵

昭和40年 (1965年) 9月 鳴子



描彩する高橋盛

昭和40年 (1965年) 3月 弥治郎



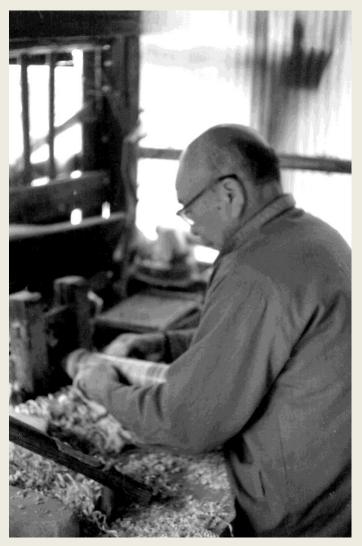
新山久治



新山福太郎

昭和40年(1965年)3月 遠刈田





佐藤丑蔵

昭和41年(1966年)4月 肘折



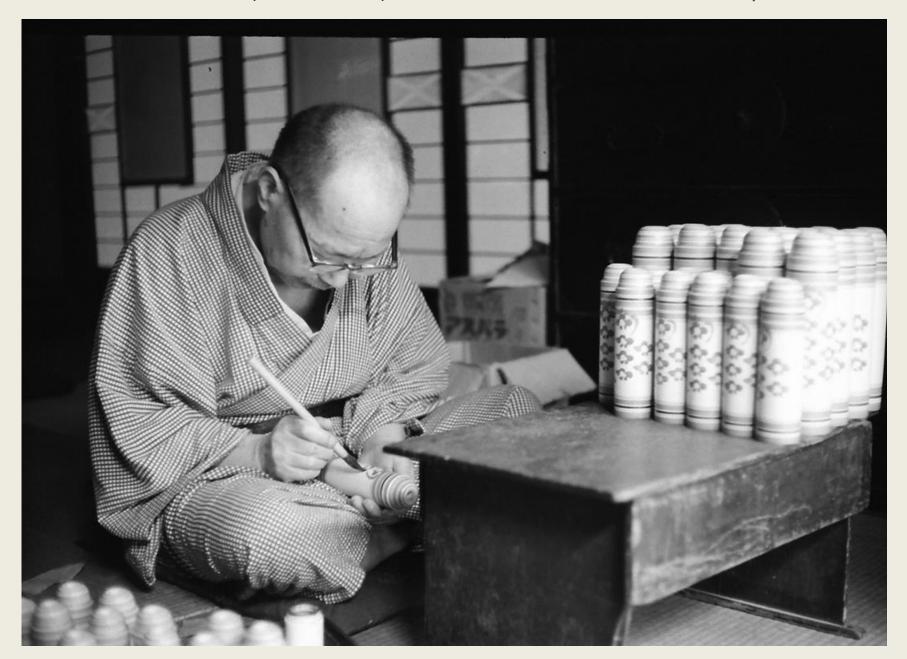
鈴木幸之助

昭和41年(1966年)4月 肘折



横山政五郎

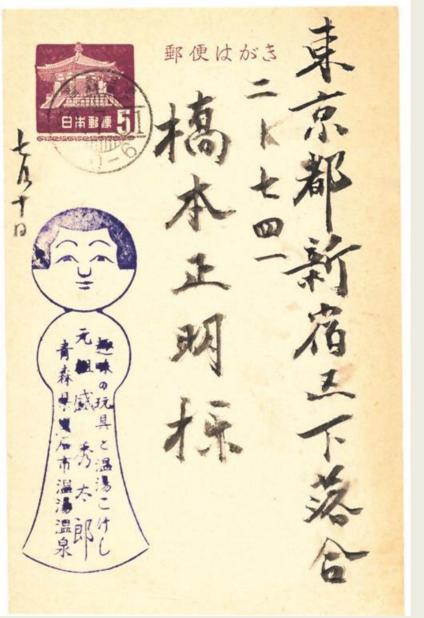
昭和41年(1966年)8月 山形 小林吉三郎



昭和43年(1968年)3月 山形 小林清次郎·吉三郎



盛秀太郎からのはがき 昭和40年(1965年) 7月



昭和43年 (1968年) 8月 温湯

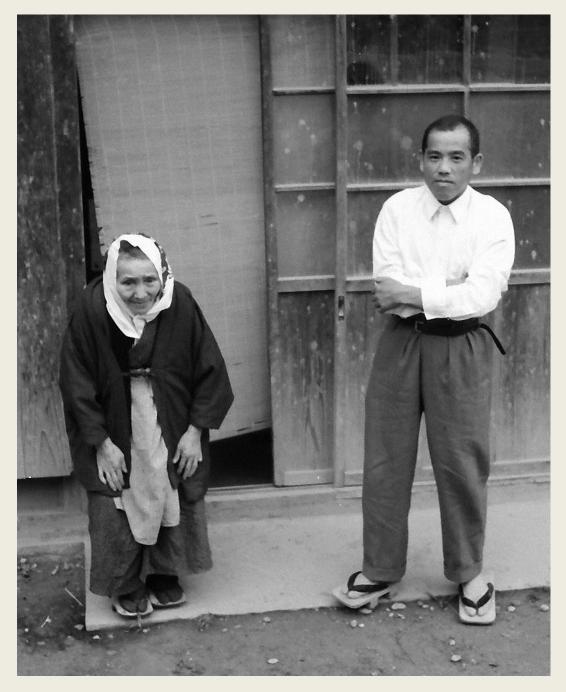


盛秀太郎 (「小さな蕾」土橋慶三さんが使った)



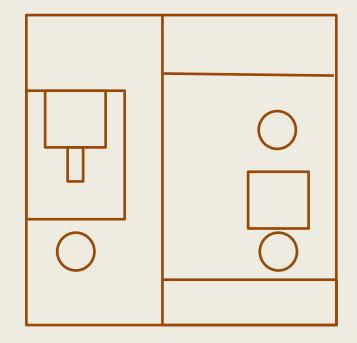
昭和40年(1965年)12月 弁之助型を挽く憲一





昭和41年(1966年)9月 憲一と母キク キクさんの話

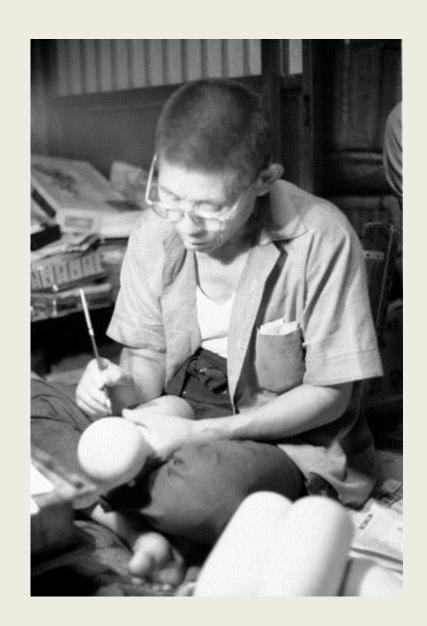
- 六箇寺院
- ・ 廻り舞台
- 戊辰の役 (漬物・お砂糖)



二回目の木地山



昭和43年 (1968年) 夏 及位から横山五郎さんと



昭和43年(1968年)夏 利亮を指導する久太郎

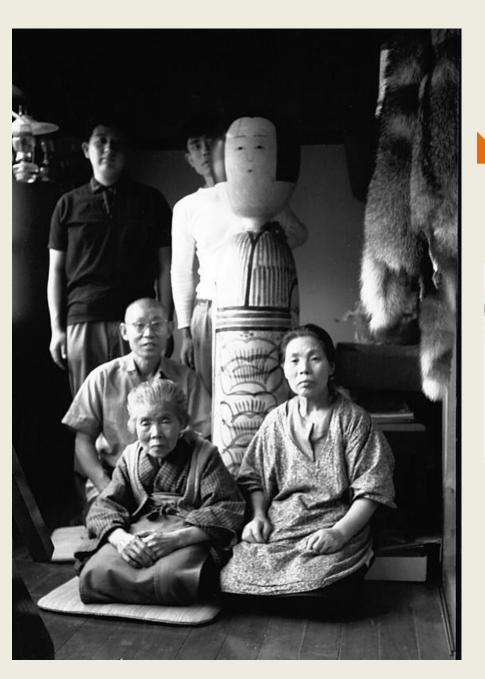




一心に木地を挽く利亮



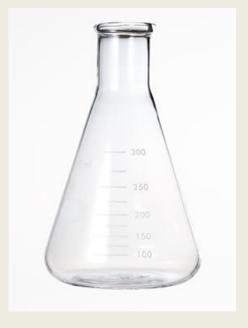




熊の毛皮







クマタケ (香茸)



どぶろく

民俗学の宮本常一 「聞書きに何回も行って どぶろくが出るように なったらようやく 本当のことが聞ける。」

まむし酒

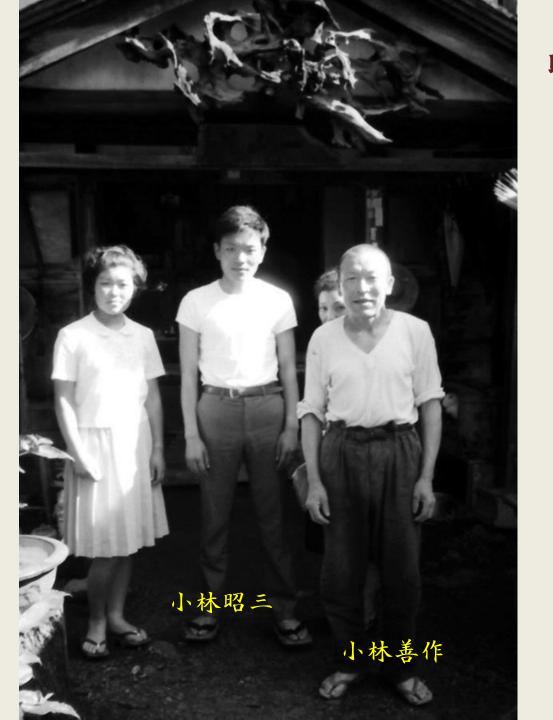


肘折の朝市

鉈割りがっこ



昭和43年(1968年)3月 湯田 小林善作



昭和42年(1967年)7月 湯田

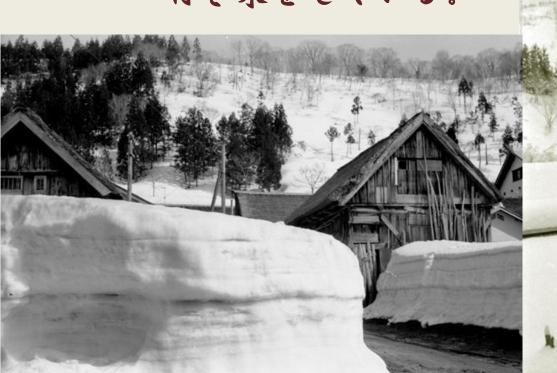


小林昭三 昭和42年7月 6月

冬の肘折の伝説

雪が深く、村は殆どが 雪に埋まる。

村の人は、村中に 蟻の巣のように 雪の下のトンネルを掘って 行き来をしている。





昭和43年3月 肘折

春が近づくと雪の トンネルは地面のほう から解ける。 天井がだんだん 低くなる。

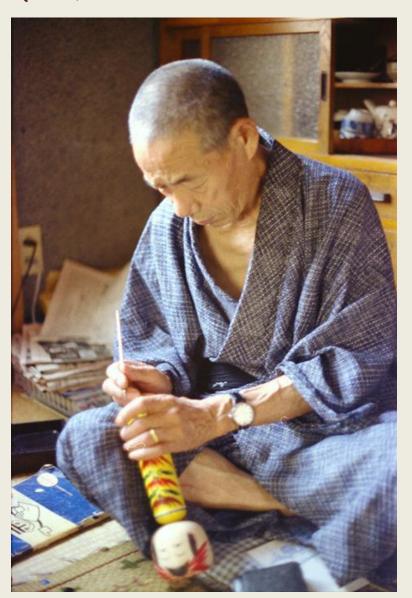
どうするか?



肘折 奥山喜代治



昭和43年 (1968年)



昭和46年 (1971年)

昭和45年(1970年)8月 及位 佐藤文吉



昭和48年(1973年) 鳴子 大沼君子



こけし 産地 工人

鹿間時夫: こけし・人・風土

西田峯吉: 鳴子・こけし・工人



工人

産地

遥かなれども 夢にまで

ころの山々 ころのこけし

深沢要





こけし

工人

産地

みちのくは山国にして われまた

深沢要





工人

産地

いささかの わが若き日の旅のしるしぞこけしは古びあせたれど

深沢要

